

学 位 論 文 要 旨

氏 名 白井 克尚

題 目 1950年代前半における「新しい郷土教育」実践の創造過程に関する歴史的研究
—郷土教育全国連絡協議会の教師たちの取り組みを中心に—

学位論文要旨（和文2,000字又は英文1,000語程度）

1. 研究の目的と方法

本研究の目的は、1950年代前半における郷土教育全国連絡協議会（以下、郷土全協）の立場から取り組まれた「新しい郷土教育」実践の創造過程に着目して、歴史的研究を通してその実態を解明し、教師たちによる取り組みの特質について考察することである。

先行研究の検討を通して、これまでの先行研究が十分考察を及ぼしていない1950年代前半における「新しい郷土教育」実践の創造過程に関して、複数の代表的な実践家の事例を取り上げ、その創造過程に関わる教師たちによる取り組みの特質について検討する研究史的な課題が生じた。そこで、本研究では、1950年代前半における郷土全協を代表する実践家として、小学校教師である相川日出雄と福田和を、また、中学校教師である杉崎章と中村一哉を対象事例とし、彼らの取り組みの特質について検討した。また、「実践記録」だけではなく、「生活記録」や、雑誌等に掲載された「発言記録」、教師個人の生活史を記した「生活記録」、雑誌等に掲載された「発言記録」、教師による研究の取り組みを記した「調査記録」、関係者からの「インタビュー記録」、学習者による活動を知ることができる「生活綴方」等の複数の「実線資料」を用いて、教育実践を生み出した教師の経験の意味についても検討した。

2. 研究の概要

第1章では、1950年代前半の郷土全協の教師たちによる取り組みについて、「理論」と「実践」の関わりに焦点を当てて検討した。1950年代前半のむさしの児童文化研究会による「フィールド学習」においては、専門学問の「理論」の「実践」化といった関係性が存在していたことを確認した。1950年代前半における郷土教育研究大会の開催を通じて、「新しい郷土教育」に関する「実践」の「理論」化が図られていたことを確認した。1950年代前半における戦後の郷土教育運動の展開の中で、「新しい郷土教育」の「実践」に関わる「理論」の深まりが、現場の教師たちによる教育実践の創造過程に影響を与えていたことを確認した。本章での検討を通じて、1950年代前半における「新しい郷土教育」実践の創造過程に関わった「研究者（理論）」と「教師（実践）」との協力・共同の歴史的な実態を示した。

第2章では、千葉県印旛郡富里村立富里小学校久能分校の相川日出雄による「新しい郷土教育」実践を対象として、その創造過程における取り組みの特質について検討した。相川による取り組みの特質として、「郷土史研究を活用した教材研究」が行われていたことや、「郷土史教育と生活綴方」を結びつけた取り組みが行われていたことを確認した。相川による「新しい郷土教育」実践は、「郷土史中心」の取り組みであったことを示した。

第3章では、東京都東玉川小学校の福田和による「新しい郷土教育」実践を対象として、その創造過程における取り組みの特質について検討した。福田による取り組みの特質として、「歴史地理研究を活用した教材研究」が行われていたことや、「地理教育と生活綴方」を結びつけた取り組みが行われていたことを確認した。福田による「新しい郷土教育」実践は、「地理教育」を中心とした取り組みであったことを示した。

第4章では、愛知県知多郡横須賀中学校の杉崎章「新しい郷土教育」実践を対象として、その創造過程における取り組みの特質について検討した。杉崎による取り組みの特質として、「考古学研究を活用した教材研究」が行われていたことや、「発掘調査と生活綴方」を結びつけた取り組みが行われていたことを確認した。杉崎による「新しい郷土教育」実践は、「考古学研究」と結びついた取り組みであったことを示した。

第5章では、岡山県英田郡福本中学校の中村一哉による「新しい郷土教育」実践を対象として、その創造過程における取り組みの特質について検討した。中村による「新しい郷土教育」実践の取り組みの特質として、「郷土研究を活用した教材研究」が行われていたことや、「社会科歴史教育と生活綴方」を結びつけた取り組みが行われていたことを確認した。中村による「新しい郷土教育」実践は、「地域運動」と結びついた取り組みであったことを示した。

3. 研究の成果

本研究の成果は、以下の三点である。第一に、郷土全協の教師たちにおける、むさしの児童文化研究会が主催した「フィールド学習」への参加の経験や、郷土全協が開催した郷土教育研究大会での理論の深まりなどといった要因が、「新しい郷土教育」実践の背景となっていたことを示したことが示された。第二に、1950年代前半における郷土全協の教師たちが、考古学・地理学・地質学といったフィールド中心の学問研究の研究手法を活用した教材研究を行うことによって、「新しい郷土教育」実践の創造を可能にしていたことを示された。第三に、1950年代前半における郷土全協の教師たちによる「歴史教育と生活綴方の結合」が、「郷土」の具体物を用いた歴史指導と、生活綴方的教育方法による「概念くだき」による生活指導の結びつきによって取り組まれ、児童・生徒によって、すぐれた作文や詩を生み出していたことが示された。